



Annual Report

年次報告書

2019

公益財団法人 日本YWCA

YWCA (Young Women's Christian Association) は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。1855年に英国で始まり、現在世界100以上の国・地域で活動しています。

日本YWCAは、24の地域YWCA、37校の中高YWCAとともに、女性や子ども、高齢者など、弱い立場におかれている人たちをエンパワーすると共に、ビジョンに掲げた社会を実現する人材を養成しています。

日本YWCAの使命（ミッション）

イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する。
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む。

日本YWCAのビジョン

地域で女性達が主体的に活動することを通して、以下の社会をめざします。

1. 平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会
2. 女性と子どもの尊厳を守る社会
3. 若い女性がリーダーシップを発揮する社会
4. 多世代・多文化で多様な背景を持つ人びとを尊重する社会

目次

▶ 若い女性のリーダーシップ養成	1
世界YWCA総会派遣	
中高YWCA全国カンファレンス	
全国ユース・ギャザリング	
日韓ユース・カンファレンス	
「北京+25」にかかる活動	
▶ 被災者支援活動	4
東日本大震災被災者支援	
リフレッシュプログラム（保養キャンプ）	
セカンドハウスプログラム	
YWCA活動スペース「カーロふくしま」	
福島県における台風19号被災者支援	
北海道胆振東部地震被災者支援	
海外における緊急支援	
▶ 國際連帯／アドボカシー	7
パレスチナYWCA支援／オリーブの木キャンペーン	
アジア地域YWCA会議	
声明・賛同・後援	
▶ Local Action（地域YWCAを主体とした活動）	8
▶ 寄付報告	9

▶若い女性のリーダーシップ養成



世界YWCA 総会派遣

2019年11月17日（日）～22日（金）
@南アフリカ・ヨハネスブルク

若い女性たちが権力構造を変えるために

2019年11月、南アフリカ・ヨハネスブルクで開催された世界YWCA 総会には、80カ国から500人の参加者が集いました。日本YWCAからは、30歳以下のユース8名を含む13名が参加し、たくさんの出会いと気づきを持ち帰りました。

世界YWCA 総会は、4年に1度、世界のYWCA運動が一堂に会し、過去4年間の活動を振り返り、活動計画・予算・決議の採択・会則改正等を含む今後の活動方針を決定する最高意思決定機関です。また、講演やディスカッション、ワークショップなどを通じて、世界中で女性たちが直面している社会的な課題に関して情報が共有されました。加えて、毎朝の礼拝やレセプション、地域別会議など、参加者がともに祈り、食し、交流して絆を深め合う場もありました。



世界各国から南アフリカに集結した参加者



日本YWCAから参加した若い女性たち



ワークショップの参加者と



ネルソン・マンデラ像と



代議員席

総会のテーマは「ジェンダー平等に向けて、若い女性たちが権力構造を変革する」。発表者やパネリストとしてユースの活躍が際立ち、また世代を超えた協働を、参加者全員がともに考えた総会でした。

日本YWCAから参加した8名のユースたちは、ワークショップ「若い女性がYWCA運動の主体となるには？」を企画・実施。それぞれの経験と思いを海外のYWCAメンバーの前で堂々と発表し、最後にはワークショップ参加者とともに、一人ひとりの言葉を集めた「翼」のモチーフを作成しました。



「若い女性のリーダーシップのため」
のキーワードを羽根に書き、
翼を作りました

参加者の声

世界 界YWCA 総会には、情熱と愛を持って活動している仲間がたくさんいました。みんなからもらったパワーを、情熱を、YWCAで広めていきたいです。また、若いメンバーの活躍も目にしました。ユースみんなにとってYWCAがセーフ・スペースだと感じ、活躍していくける働きかけをしたいです。

活動 動を知る側から伝える側へ。YWCAに関わり続ける中で成長していくのだと実感した。YWCAは居場所であるだけでなく、確かに若い女性のリーダーシップを育成する団体なのだと、世界に出たときにふと再認識させられる。

色 んな人達の協力があったお陰で私達が代表として行けたので、今回参加できなかった人たちにしっかり報告した上で他地域YWCAとの繋がりを増やしつつ、ユースの活躍の場を広げるために自ら率先して企画などをやっていきたいです。

中高YWCA全国カンファレンス

2019年8月8日(木)～10日(土)

@広島女学院中学校・高等学校ほか

テーマ 世界につながる いのちのチカラ—ひろしまを考える旅

「平和とは何か」を心に持って

日本YWCAに加盟する全国の中学校・高等学校から、中高YWCAに所属する生徒たちが広島に集まって「全国カンファレンス」を開催しました。今回23校から189名、中国と韓国YWCAからも同世代の参加者を迎える、共に被爆者の証言を聴き、フィールドワークで広島と呉の過去を学び、現在の状況を見て歩き、未来に向けて感じたこと、考えたことを語り合いました。

参加者の声

世 界には自分と違う感じ方をする人がたくさんいて、考える分だけ意見があると思います。そんな中で、自分の考え方こそが正しいと押し付けるのではなく、違う意見も尊重しつつ、互いが納得できるような結論にもっていけるよう努力することが重要だと感じました。全世界で平和を実現することは簡単ではないと思いますが、少しずつでも行動しつづけていきたいなと思います。(高2)



全国の中高YWCAからの参加者たち

私 たちが生まれるよりずっと前に投下された一つの兵器で、今でも苦しんでおられる方がたくさんいるという事実を知り、原爆がもたらした傷は、生涯消えることがないのだと感じました。そういった事実をしっかりと正しく認識した上で、将来を担っていく私たちにできることは何かということを自分で考え、実行していくことが大切だと思いました。お話しを伺った被爆者の方の、「一人ひとりが『平和』とは何かを、しっかり心に持つて行動することが大切」という言葉を心にとめて、「平和」とは何かをしっかり考え、自分の軸を持って行動できる人間になりたいと思いました。(高3)

全国ユース・ギャザリング

2019年10月12日(土)～13日(日) @長崎

若い女性の「やってみたい！」を応援し、実現する2日間

「全国ユース・ギャザリング」は、YWCAに繋がる全国のユースが集まり、各自の関心について語り合い、学び合い、そしてともに「やってみたい」企画を考えるプログラムです。若いメンバーたちがそれぞれの地域で主体的に活動できるリーダーシップをつけることを目指しています。

最年少は13歳の中学生から、また遠方の仙台や福島からの参加もあり、年齢的にも、地理的にも、さまざまな背景を持つユースが22名、長崎に集いました。1日目は長崎・外海でのフィールドワークからスタート。禁教と隠れ・潜伏キリストンの歴史が刻まれた外海で、きれいな海を眺めつつ、差別とキリスト教信仰の歴史を学びました。翌日には、若い参加者がYWCAで「できること」、「主体的にやってみたいこと」を語り合うセッションを実施しました。

プログラムの企画・実施を中心的に担ったのは、開催地区となった長崎・熊本・福岡の九州3市YWCA。2年間近く温めてきた構想が現実のものになった2日間でした。



ユースが引率してのフィールドワーク

参加者の声

ユース・ギャザリングに参加してみて、私がよかったですのは、何よりもユースの仲間達に会えたことです。馴染みの仲間も、一年ぶりの仲間も、はじめての仲間も。美味しいご飯と一緒に食べて、おしゃべりして、笑って…ということは対面ではないとできないことなので、離れたところにいる仲間同志にとってはとてもとても貴重なことだと思います。

年前のユース・ギャザリングで芽生えた、私たちの「野望」、ミュージカルワークショップを、私たちは実現することができました。今回のユース・ギャザリングで生まれた新たな「野望」、これからさまざまな形で叶えていくことを期待して、またこれからもYWCAに関わっていきたいなど、思っています。

日韓ユース・カンファレンス

2020年1月17日（金）～20日（月） @韓国・ソウル

テーマ 「ミソジニーと日韓#MeToo運動—東アジアの女性たちの連帯に向けて—」

性暴力のない世界へ、ユース・フェミニスト・アクション！

日韓ユース・カンファレンスは、日本と韓国の若い参加者が寝食を共にしながら、日韓共通の課題についてともに学び語り合う、草の根の平和交流プログラムです。2019年度のテーマは「ミソジニーと日韓#MeToo運動」。日本側参加者21名と韓国側参加者19名で、日本・韓国におけるミソジニー（女性嫌悪）の実態や、それに対抗する#MeToo運動の現在について学びました。訪問先の一つは、日本軍「慰安婦」問題を記憶する「戦争と女性の人権博物館」。「慰安婦」問題は、韓国の#MeToo運動の基盤をつくったと認識されており、参加者は「慰安婦」にされた女性一人ひとりの性被害に心を痛め、また声をあげる姿に勇気をもらいました。プログラム後半の協議では、自分たちにできる行動として、性暴力・性差別に反対する「#MeToo」「#With_you」などのメッセージを書いたTシャツを着て、オンライン上で広くアピールするアクションプランを採択しました。

*本事業は、一般財団法人大竹財団の助成金を受けて実施しました。



戦争と女性の人権博物館にて



日韓の参加者たち



ジェンダー平等専門図書館「Yeogi (ヨギ)」見学

参加者の声

参 加してみて、日本軍「慰安婦」の問題は性暴力であると同時に構造的な暴力であることがわかりました。それを理解した時にやっと私は自分と日本軍「慰安婦」の問題が繋がった気がしました。

ミ ソジニーに抵抗すること、フェミニストでいることは、単に女性蔑視的な思想と闘うことではなく、社会の中の権力と闘うことも意味していると思います。（中略）日本で小さな存在として大きな存在に声をあげる私と、韓国から日本政府を相手に声をあげるハルモニたちは構造として同じであり、彼女たちが声を上げる姿勢に深く深く共感し励まされました。

私 たちユースは戦争を知らない世代だけれど、知らない世代だからこそ築ける平和の可能性というのも強く感じました。戦争や「慰安婦」問題の悲しさを伝えていくのと同時に、今の世代だからこそできる対話、というのも存在しているのだと思いました。

「北京+25」にかかわる活動

2020年は、1995年の第4回世界女性会議（通称「北京会議」）と「北京行動綱領」採択から25周年の節目の年です。国連機関UN Womenは、この行動綱領の実施状況を調査するプロセスに若者の参加を確保するため、全世界より30名のユースからなる「北京+25ユース・タスクフォース」を発足させました。この30名の代表者の1人として、日本YWCAの山口慧子幹事が選ばれています。

また、日本YWCAは、アジア女性資料センター・ユースグループと共に、日本の多様な若い世代の声を国内外の政策提言の場に反映させるため、2020年2月に「北京+25 ユース・アンケート」を実施、57名のユースの回答を日本語・英語で「北京+25 日本版ユース・レビュー」として文書化しました。

▶ 被災者支援活動

東日本大震災被災者支援～息の長い支援を～

2011年3月11日、あの日に生まれた子どもたちが、20歳になるまで支援を続けようと「com7300委員会」を立ち上げ、東日本大震災被災者支援に取り組んでいます。「com」は「ともに」の意味、「7300」は20年間の日数です。東京電力福島第一原子力発電所の事故から9年、原発事故の終息には今後も長い年月が必要ですが、政府による施策は次々に打ち切られ、放射能被災による課題はそれぞれの生活の上に取り残されています。日本YWCAは、リフレッシュプログラム、セカンドハウスプログラム、YWCA活動スペース「カーロふくしま」を拠点とした事業、の3本柱で支援活動を行っています。これからも、多くの「小さな声」の叫びを聴きながら、活動を続けていきます。

リフレッシュプログラム（保養キャンプ）

＠東京・静岡・名古屋



名古屋YWCA 岩屋堂公園にて



熊本YWCAわくわくキャンプ（2019年3月）

のびのび、わくわく リフレッシュ

リフレッシュプログラムは、放射能の影響の大きい地域で日々を暮らす子どもと大人が、安心・安全な場所で心身ともにリフレッシュするために実施しているプログラムです。全国各地の地域YWCAが、それぞれの地域の特色を生かしたプログラムを夏や春の子どもたちの長期休暇に合わせて行います。

東京YWCAでは、前年度行った調査に基づき、これまで保養の手が届いていなかった児童養護施設の子どもたちを、野尻キャンプ場に招きました。また重度の障がいのある子どもとその家族が参加できるキャンプも継続しています。

静岡YWCA、名古屋YWCAはそれぞれ自然を楽しむプログラムを行っています。海や川での水遊び、キャンプ場での野外料理、オリエンテーリングなど、屋外や自然の中で思い切り、笑い、遊び、動くことを体験できる数日間です。

小学生の時から継続して参加していた子どもが中学生になり、リーダーを担うようになったYWCAもあります。今後もさまざまなニーズに応えつつ、継続して活動します。

2019年度は3つの地域YWCAで実施。放射能被災地域の子どもと大人82名が参加しました。

*なお、3つの地域YWCAが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響等の理由により、2020年3月の開催を中止・延期しました。

セカンドハウスプログラム

2019年度利用者数：28家族84名

家族でリラックスする「もうひとつの我が家」

セカンドハウスは、福島県内および放射線量の高い地域に居住する家族やグループ、および単身女性を対象に、自宅同様にリラックスして過ごせる家族型滞在保養プログラムです。

乳児や就学前の小さい子どもがいるご家族、きょうだいに年齢差があり一緒に保養プログラムに参加できない、ひとり親のご家族、普段の生活からほんの少し距離を置いて心身ともにリラックスしたい場合などに利用されています。また、利用者のリピーター率の高さは、「もうひとつの我が家」としてのニーズの高さを示しています。2019年度より申し込み受付を年3回に分け、夏休みなど長期休暇にスケジュールを合わせやすくしました。

2020年1月には長年多くの利用者を迎えてくださった名古屋セカンドハウスが終了しましたが、これまで利用された方々から大家さんへたくさんのメッセージが届きました。セカンドハウスは活動の趣旨に賛同してくださる大家さんから住宅を無償で提供していただき、地域YWCAや近隣のボランティアの皆さんのが運営のサポートを行うなど、たくさんの方々のご協力とご寄付によって運営されています。

利用者の声

今 回初めてセカンドハウスを利用しました。福島では歩いて出かけることがあまりないので、たくさん息子と歩き、たくさん喋ることができて楽しい時間を過ごせました。大家さんと私たちも無理のない気を遣いすぎない、つかず離れずの心地よい距離感でした。

家 主さんの底抜けのやさしさ、温かさに癒されて帰ってきました。親身になって下さり、また、福島のことを知ろうとして下さることに、心からありがとうございます。ホテルはない、自宅のような場所に普段の生活をしながら過ごす数日間、YWCAの皆様と家主さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

YWCA活動スペース「カーロふくしま」

2019年度利用者数：のべ537名



左：なつやすみ おやこワークショップ@カーロふくしま

右：なつやすみ おやこワークショップ作品

支援の拠点として、女性と子どもたちをサポート

「カーロ」はイタリア語で「親愛なる」「大切な」を意味し、YWCAの東日本大震災被災者支援の活動拠点として、2012年11月に福島市に開設しました。福島に住む女性や子どもたちをサポートし、震災後の生活や放射線量による不安や悩みを解消し、安心して話し・集い・学ぶためのセーフ・スペースとなるよう、さまざまな活動を行っています。

カーロふくしまで行うプログラムは、com7300委員会によって運営され、心とからだの安全と安心をサポートする講座、生活に潤いを与えるリフレッシュできるワークショップなど、多岐にわたります。またスペース提供という形で地域の市民活動を支援しています。

加えて、全国各地の保養を行っている団体と連携し、福島市近郊の皆さんへの保養情報提供や相談会への会場提供、NPO法人新宿代々木市民測定所と提携し、尿中セシウム無料測定の窓口にもなっています。

- カーロふくしまおはなし会（5回開催）
- 福島Y'sカフェ（福島YWCA主催によるワークショップ・2回開催）
- いわき市、二本松市、白河市への出張保養相談会
- そのほか、パステルシャインアート教室、ネイルケア教室、保養団体への会場提供など

福島県における台風19号被災者支援

2019年10月に発生した台風19号の被害に際し、大雨被害を受けた福島県で、日本YWCAはYWCA活動スペース「カーポふくしま」を拠点に、福島YWCAと協力して被災者支援活動を行いました。東日本大震災被災者支援活動のつながり・積み重ねを生かし、多くの主体と連携して支援を届けることができました。

支援物資は、神戸YWCAからタオル、「福島こども保養プロジェクト@練馬」よりランドセル・文具などの子ども用品、ピースボート災害支援センターの協力により、P&G社よりタオルや洗剤などの生活用品が寄せられました。

支援物資の仕分け・配布には福島YWCA会員が尽力し、伊達市梁川町の保育園や介護老人保健施設、伊達市役所の災害対策本部、いわき市の避難所、リフレッシュプログラムやセカンドハウスの利用者で被災した方々などに届けました。また、臨時避難所となった新地町役場に、飲料水と衛生用品を送付しました。



浸水の爪痕が残る伊達市梁川町(2019年10月)



緊急支援物資の配布活動

北海道胆振東部地震被災者支援

2018年9月6日、北海道胆振東部地方は最大震度7の揺れに襲われました。札幌YWCAを活動の拠点に、函館YWCA・日本YWCA・近隣教会ほかが連携して支援にあたりました。支援の内容は、液状化の被害が深刻な札幌市清田区里塚地区（以下、里塚地区）への義援金とリフレッシュプログラムの実施、中央共同募金会が設置する災害ボランティア活動支援プロジェクト会議から要請を受けた、むかわ町子ども発達支援センターたんぽぽ（以下、たんぽぽ）への協力でした。

2019年度は、札幌YWCAと近隣教会が連携、日本基督教団北海教区の協力を得て支援を継続。さらに10月からは組織を再編し、「胆振東部地震キリスト教支援連絡会」として支援を継続しています。7月から9月にかけて、たんぽぽと子ども発達支援センター穂別きらりの子どもたちとそのきょうだい・保護者を対象に、3回にわたってノーザンホースパークにて日帰りの保養プログラムを実施しました。馬に触れ合ったり走り回ったりと、思い思いに過ごしました。

里塚地区でのリフレッシュプログラムは9月で終了しましたが、10月以降も日本基督教団北海教区の支援により、住民の要望である体操と編み物の継続、お茶会等を通してニーズに対応しています。なお、好評のお茶会は、2020年度も引き続き札幌YWCA・日本基督教団北海教区・北海道バプテスト地方連合が分担して実施する予定です。

海外における緊急支援

日本YWCAは、海外のYWCAと連携し、災害等の際には募金を呼び掛けて、現地のYWCAの活動をサポートする形で、緊急支援活動を行っています。

- 2019年3月にアフリカ南東部を襲ったサイクロン「イダイ」の被害に対し、ジンバブエYWCAの「Rebuilding her Kitchen（彼女の台所を建て直す）」キャンペーン、マラウイYWCAの女性たちへの緊急支援活動をサポートしました。
- スリランカ・コロンボで2019年4月に起きた教会での銃乱射事件に関して、被害者遺族の心のケアを行う「記憶を癒す（Healing of Memories）」プログラムへの支援を行いました。
- 2020年1月に起きたフィリピン・タール火山の噴火被害に際し、フィリピンYWCAが行っている被災地域への支援活動をサポートしました。



スリランカ「Healing the Memories」プログラム



フィリピンYWCAの被災者支援活動

▶ 国際連帯・アドボカシー



パレスチナYWCA支援／オリーブの木キャンペーン

パレスチナに希望の木を植える

パレスチナでは、長年続くイスラエルによる軍事占領のため、人々の生活が脅かされています。JAI（パレスチナYWCA・東エルサレムYMCAの共同プロジェクト）は、パレスチナの人々の生活に深く根ざしたオリーブの木の植樹という非暴力的かつ世界中の人が寄付により参加できる方法で、現地の状況を広く伝え、雇用創出、環境保全、生活の安定化をはかる取り組みを行っています。日本YWCAは、この「オリーブの木キャンペーン」を支援しています。3000円のご寄付で1本のオリーブの苗木を植えることができます。2019年度は、日本YWCAから185本の苗木を植えるための募金を送りました。

また、日本YWCAは、パレスチナYWCAが実施している紛争解決に向けたリーダーシップ・トレーニングや女性の自立のための職業訓練、保育所運営などを支援しています。



オリーブ畑から見えるイスラエル入植地



アジア地域YWCA会議

2019年6月26日（水）～30日（日） @韓国・ソウル

女性の経済的エンパワメントを考える

2019年6月、韓国・ソウルの梨花女子大学を会場に、「アジア地域YWCA会議」が開催されました。12カ国のYWCAから集った91名の参加者は、今回のテーマ「女性の経済的エンパワメント」を中心にそれぞれ自国で行っている取り組みを紹介し合い、国を超えたさまざまな連携の可能性を協議しました。また、ソウルYWCAの女性のための人材養成センター、梨花女子大学の学生の起業を促進するプロジェクトを見学し、韓国国際協力機構（KOICA）やソウル市・女性家族部の取り組みについて講演を聴きました。最終日には、朝鮮半島軍事境界線・非武装地帯（DMZ）を訪問し、南北分断をもたらした歴史や、朝鮮半島に平和がもたらされたときに生まれる大きな可能性について思いをはせました。



朝鮮半島非武装地帯にて

声明・賛同・後援

- 「国会議会の科研費介入とフェミニズムバッシングを許さない裁判」支援の会 団体賛同（6月10日）
- 韓国は敵なのか 有志による声明 団体賛同（8月5日）
- 要望書 あいちトリエンナーレ2019の「平和の少女像」の展示の再開を要望します（8月6日）
- 抗議声明 過去の歴史の過ちを認めて謝罪し、対話による日韓外交を求める（8月6日）
- 日本・在日教会共同声明 「私たちは日本の歴史責任を直視し、韓国のキリスト者・市民社会と建設的対話を続ける」 団体賛同（8月15日）
- アジア女性資料センターユースグループ勉強会 「北京+25」について知る 団体賛同（9月12日）
- 即位および大嘗祭の一連の儀式に関する抗議声明（9月30日）
- ふえみゼミージェンダーと多様性をつなぐフェミニズム自主ゼミナール
「すべての幼児教育・保育施設に無償化制度適用を求めるフェミニストの声明」 団体賛同（11月11日）
- 中東への自衛隊派遣に関する抗議声明（2020年1月12日）
- 3・8国際女性デー ウィメンズマーチ東京 団体賛同（2020年1月12日）
- 「在日コリアン虐殺宣言年賀状」に対して、国と市に緊急対策を求めます！緊急声明 団体賛同（2020年1月23日）
- 米国における「中東和平案」に対する声明（2020年2月5日）
- 新型コロナウイルス対策を名目とする新型インフルエンザ等対策特別措置法改正に対する抗議声明（2020年3月13日）
- 中華人民共和国と大韓民国への差別的措置に対する抗議声明（2020年3月13日）

► Local Action（地域YWCAを主体とした活動）

全国24ヵ所にある地域YWCAは、日本のYWCAが取り組む社会貢献活動の拠点です。2017年に開始した「LA（Local Action）」は、地域YWCAが主体となり、地域間や他団体と協働して展開する社会貢献活動を、日本YWCAが資金提供と広報などで応援するものです。

平和の守り人

協働 札幌・函館・釧路YWCA

地域のピースマップ作りを行った「YWCA 平和の守り人」活動を中高生や青年にさらに広げるため、『はこだてピースマップ』デジタル化、憲法カフェ（10回）、2020年度開催予定のアーサー・ビナードさん講演会の事前学習会などを実施し、延べ282名が参加しました。



「平和の守り人」フィールドワーク

「原発があって幸せですか」 ～見てつながって創る私たちの未来～

協働 福島・新潟・静岡・仙台YWCA

6月に原発事故8年目の福島を体験する1泊2日のツアーを実施し、全国から30名が参加、改めて事故の非情さと住む人たちの苦しみを実感しました。また、10月には新潟で映画『日本と再生』上映会を行い、会場では原爆絵画も展示しました。大学生の協力も得、参加者とともに新しいエネルギーについて考えました。

首都圏で知る・感じる・考える！ ～沖縄のいま・福島のいま～

協働 横浜・湘南・平塚YWCA

基地も原発も日本全体の問題、自分の問題として捉え、考え、行動していくきっかけづくりとして、写真展やコンサートを開催しました。7月に豊田直巳さんの写真展『叫びと囁き フクシマ・避難民の8年間の記録と記憶』と講演会を開催、講演会には45名が参加。10月の「希望をつなぐコンサート～あの日から8年福島のこどもたちを忘れない～」には約300名が参加しました。

女性のリーダーシップ養成講座 「イチからわかる政治入門セミナー」

協働 横浜・静岡・湘南YWCA

公正な社会を実現するために、女性の政治へのコミットメントを高めることを目指して学習会を企画しました。2019年10月に行った「@パタゴニア横浜店で話そう、政治のこと、未来のこと♪」には9名が、2020年2月の「『で、“天皇”ってなんだっけ？』を気軽に語り合う会」には7名が参加し、じっくり語り合いました。

会員のパワーアップ計画第2弾

協働 京都・大阪・神戸・名古屋YWCA

活動の中核を担う運営委員の「パワーアップ」をしようと、「組織理解促進のための研修づくり」「若い女性を応援するYWCAとしてのビジョンと計画」を目標に、2回のミーティングを開催しました（11月：42名、1月：39名）。各地域の課題を共有しながら、次のステップに向けて互いをエンパワーすることができました。

生きるとは、平和とは

協働 呉・広島YWCA

平和について考えるきっかけとなる映画会を開こうと、2019年度は『コスタリカの奇跡』『コニータ』を上映し、延べ114名が参加しました。憲法グループのメンバーが増えるなど、多くの人に活動を知つてもらう端緒となりました。



上映会場

自然エネルギーは無限で安全！

協働 松山・広島・呉YWCA

6月、松山・呉・広島YWCAが企画し、高知県高岡郡の梼原（ゆすはら）町を訪問。中高生を含む44名が参加しました。行政と町民の協働による太陽光・地熱・小規模の水力・風車発電、また地元木材を使った施設建築など、地域資源を積極的に活用した循環共生の町づくりを見学し、大きな示唆を得ました。



「雲の上のまち ゆすはら」を訪問

寄付報告

2019年度も多くの
皆さまからご支援を
いただきました!

ピースメーカーズ募金	2,034,564円
災害時支援募金	1,316,047円
東日本大震災被災者支援募金 (うち カーロふくしまサポーター 571,500円)	2,971,972円
オリーブの木キャンペーン募金	574,000円
日本YWCA賛助費	1,388,000円
地域YWCA助成金	410,000円
世界YWCA総会派遣募金	2,500,702円
次世代育成資金	24,532円
	合計 11,219,817円

2019年度も、多くの皆さまからのご支援・ご協力を誠にありがとうございました。日本YWCAは、2020年度も引き続き、平和で誰もが尊重される社会となるよう、若い女性を主体に多世代で協働しながら活動していきます。引き続きのご支援・ご協力を何卒よろしくお願ひいたします。

代表理事 実生 律子・会長 藤谷 佐斗子

日本YWCAの活動をご支援ください。

募金の種類

ピースメーカーズ募金 ⇒ 平和を創りだす女性のリーダーシップ養成活動に用います。

東日本大震災被災者支援募金 ⇒ 被災地の女性と子どもたちを支援する活動に用います。

賛助費 ⇒ 日本YWCAの活動全般をご支援ください。
[一口年額] 3,000円／5,000円／10,000円

災害時支援募金 ⇒ 緊急支援活動に用います。

オリーブの木キャンペーン募金 ⇒ 一口3,000円で、オリーブの木1本をパレスチナに植えます。寄付者には証明書が発行され、植樹された場所に寄付者の名前入りプレートを置きますので、必ずお名前のローマ字表記をお知らせください。

※日本YWCAへの募金/寄付金(賛助費を含む)は、税額控除の対象になります。

募金方法

▷銀行振り込み

三井住友銀行 飯田橋支店 普通 1198743 (口座名) 公益財団法人日本YWCA

ゆうちょ銀行 支店名019 当座預金 023723 コウエキザイダンホウジンニホンワイダブリューシーエー

※銀行振り込みの場合、Eメールで①募金の種類、②ご住所、③お名前を、
また、オリーブの木キャンペーン募金の場合は、④お名前のローマ字もお知らせください。

▷郵便振替

00170-7-23723 (加入者名) 公益財団法人日本YWCA

※通信欄で募金の種類をお知らせください。オリーブの木キャンペーン募金は、お名前のローマ字をお知らせください。

▷クレジットカードで募金(つながる募金)

つながる募金からのご寄付は全て、東日本大震災被災者支援事業に使われます。

携帯からご寄付
される場合

ソフトバンクの場合 ⇒ 寄付金は毎月の電話料金に加算されます。

他の電話会社の場合 ⇒ 寄付金はクレジットカードでのお支払いになります。

右のQRコードから
アクセス→



つながる募金

▷口座振替で募金、カーロふくしまサポーター募集中!

毎月の自動引き落として、東日本大震災被災者支援事業の一つ「カーロふくしま」を支えてください。

お申し込みは日本YWCA (office-japan@ywca.or.jp)までEメールにて、

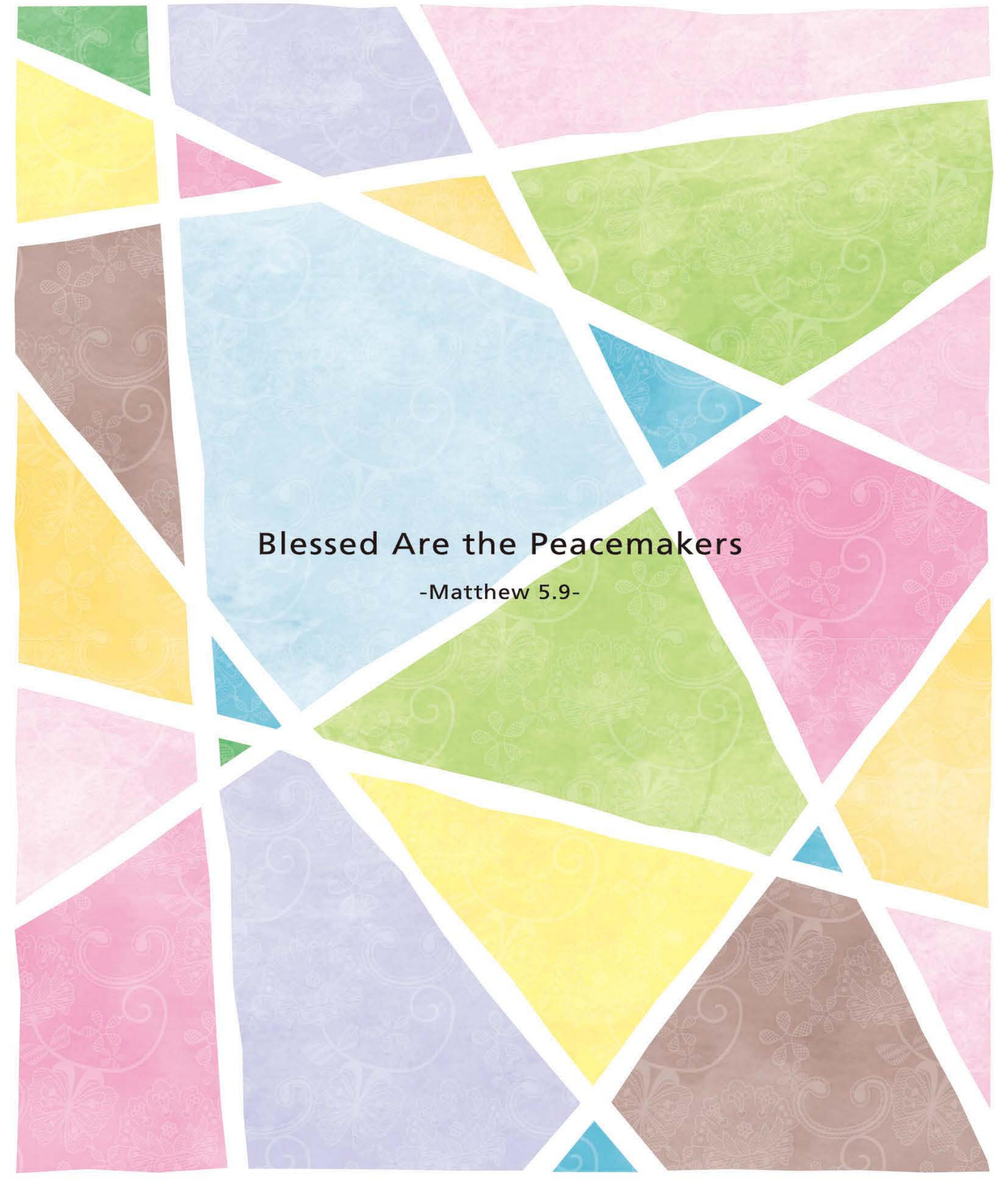
お名前・ご住所・電話番号・メールアドレス、毎月の引落希望額(500円/1000円)をご連絡ください。

公益財団法人 日本YWCA

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館 302号室

Tel: (03)3292-6121 Fax: (03)3292-6122 Email: office-japan@ywca.or.jp

Website: <http://www.ywca.or.jp>



Blessed Are the Peacemakers

-Matthew 5.9-